

経営基盤強化型 株式会社TRINC

革新的技術の静電気除去機で世界へ挑む

新事業支援部 戦略的CIO育成支援プロジェクトマネージャー 摩文仁一雄

【ポイント】～国内営業体制をコアに積極的に海外展開を図る～

電子部品製造、自動車の塗装工程など生産現場を悩ましている静電気を、イオンを飛ばして作業場所の静電気を広範囲に取り除く除電機を開発しそれを武器に成長してきた。国内市場は既存設備のリプレースを主体に成長してきたが、大手の自動車メーカーに採用されたのを機会に海外からの引き合いも増え新たな成長のチャンスが巡ってきた。しかしながら、営業体制がどちらかというと「受け身の営業」であり、本格的な海外展開前にまず国内の営業体制の強化と営業情報の共有化を図り、海外顧客に対してもその営業・顧客情報システムをコアに展開をはかり、さらなる成長戦略を推進できるよう営業体制の強化を図る。

企業概要

- ▶ 企業名：株式会社TRINC
- ▶ 業種：電子機器（静電気除去機）の製造販売
- ▶ 本社所在地：静岡県浜松市西区大久保町748-37(浜松技術工業団地内)
- ▶ 資本金：60百万円
- ▶ 設立：平成3年2月
- ▶ 売上高：370百万円(平成22年1月期)
- ▶ 従業員数：33名



代表取締役 高柳 真社長

トリンクは大手発動機メーカーや通信メーカーの技術者を経験した高柳社長が電子部品の受託会社として創業した。当初は車載センサーなど様々な製品開発を手掛けていた。そんな中で以前勤めていた発動機メーカーより塗装工程における埃による不良に悩まされていると相談を受け、従来のイオンを圧縮空気やファンで飛ばす方式に疑問を持ち、風を使わなくてもイオンを遠くに飛ばすことを考え、プラスとマイナスイオンの放射口を別々にする方式を独自に開発した。これが評判を呼び、従来の電子部品の受託開発から静電気除去機の開発をビジネスの柱として製品開発を行ってきた。最初に対象製品

にイオンを吹き付けるガンタイプ、そしてプラスとマイナスのイオンを放射する機器をポールスタイルにして、それぞれ離れた場所に置き、その作業場所全体の静電気を除去する「空間トリンク」という新製品を開発した。



各種のトリンク製品

当初は大手競合メーカーの営業体制に力負けていたが大手自動車メーカーが採用してテレビで紹介されたのを機に、既存の静電気除去機のリプレースを主体に実績をあげてきた。また、海外の液晶メーカーや海外の日系企業からの引き合いも増え、それらに対応するため大連に営業所を設け、上海、深圳、ベトナム、タイと海外拠点づくりが大きな課題となっており営業体制の強化を軸にさらなる成長を図っている。同時に130件もある特許を守るべく知財戦略も有効に活用して更なる成長を目指している。

支援課題の設定とプロジェクトマネージャーの視点



摩文仁一雄
CIO育成支援プロジェクトマネージャー

当社はパブリシティを主体とした広報・認知のための専門家継続派遣の支援を受けて、静電気読本やHPを活用した営業活動を行ってきた。しかしながら顧客が国内から海外と展開する状況の中では、現状の少ない営業人員では既存顧客のアフターケアや新規案件の掘り起こしなども十分に行えない状況になりつつあった。これを打破するためどちらかという受け身の営業から、少ない要員でもしっかりとした営業活動ができるよう営業情報・顧客情報の共有化と先々海外拠点でも利用できるよう営業情報化をテーマとして合わせて顧客獲得プロセスの見直しを行い受け身の営業からの脱却を図ることを目指している。

支援内容と支援成果

企業側の受入体制は、現行のシステム担当者をCIO候補者とし、合わせて営業側からもプロジェクト担当者を選任し、顧客獲得から、受注・

売上および顧客フォローアップも含む営業部門の業務全般の見直しを行った。以前、ファブレスに対応した生産管理システムを導入した経験があったが、本格的に業務の見直しからシステム化構想づくりを行うにはスタッフにとっては初めての経験であり、当初はかなり戸惑いもあった。現在では海外展開も含め経営課題として取り組みテーマの洗い出しも終わり、最優先課題である国内営業体制の強化で実現すべきシステム要件の優先順位付けから業者選定まで企業側で主体的に行えるようになってきた。本格的なシステム導入はこれからだが導入に並行して営業体制強化の推進も行う予定である。

経営者のことば

機構から「パブリシティの強化」で支援をいただいて静電気に関する『静電気・ホコリ〔ゼロ〕革命』を出版し、HP上の静電気読本を武器に営業活動を行って来ましたが、少ない営業要員で国内顧客の掘り起こしとフォローアップ、さらに海外展開を行うためにはIT活用で営業情報・顧客情報の共有化は不可欠と考えています。今回は営業の業務プロセスと体制の見直しまで含め効果が早期に出るよう取り組んでいきたいと思っています。

